

特許第七四四七三號

〔昭和二年公告第三四一〇號〕

第百九十七類 一四、受話器

出願 大正十五年九月二十五日
公告 昭和二年八月二十四日
特許 昭和二年十一月二十二日

明細書

受話口ノ改良

發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ音聲通路部ハ之レニ取付ケラレタル彈條部ヲ有シ之レニヨリテ該音聲通路部ハ聽道ト殆ント緊密ナル音聲接觸ニ於テ維持セラレ該兩部ハ外耳内ニ位置セラル、コトヲ特徵トシ電話受話器ニ接續セラレ且ツ聽道ニ接續スルニ適スル型成音聲通路部ヲ有セル調整自在受話口ニ係リ其目的トスル所ハ耳ニ適合シ且ツ外側支持部ヲ有スルコトナク定位位置ニ支持セラル、如キ方法ニ於テ耳ニ係合スル小電

亞米利加合衆國ニューゼルシー州モーリス郡
マウンテンレーク、パワーズイル街二一住
發 明 者 スタンレー・トムソン・キュー

亞米利加合衆國ニューゼルシー州ユニオン郡
エリサベス、エルミラ街一〇四番住
發 明 者 エミル・カール・ミューラー
ジェニオル

亞米利加合衆國ニューゼルシー州クインズ郡
フラウシングスター・ト街二六二番住
發 明 者 ワーレン・クラーク・ジョーンズ

亞米利加合衆國紐約市ブロードストリート四十一番
特 許 權 者 インターナショナル・スタン
ダード・エレクトリック・コー
ポレーション

復 代 理 人 富 田 忠 一 名 詮
外 一 名

話受話器ノ支持部ヲ有シ又異ナレル大サ及ヒ形狀ノ耳ニ適合スル調整自在ナル受話口ヲ供シ斯クシテ比較的少數ノ標準形ノ異ナレル大サノ受話口ヲ以テ多數ノ異ナレル耳ニ適合セシムルニアリ

圖面ノ略解

第一圖ハ受話口ヲ定位置ニ取付ケタル耳ノ側面圖ニシテ其ノ外側ヲ示シ第二圖ハ電話受話器ヲ取付ケタル受話口ノ頂側面圖ヲ示シ第三圖ハ受話口ノ底面圖ヲ示シ第四圖ハ電話受話器ヲ取付ケタル受話口ノ音聲通路ニ沿フ橫斷面ヲ示シ第五圖ハ僅カニ異ナリテ設計セラレタル彈條部ヲ有スル第一圖ノ變型ヲ示シ第六圖ハ電話受話器ヲ取付ケタル第五圖ニ示セル受話口ノ內側面圖ヲ示シ第七圖ハ電話受話器ヲ取付ケタル第五圖ニ示セル受話口ノ頂側面圖ヲ示シ第八圖ハ電話受話器ヲ取付ケタル第五圖ニ示セル受話口ノ內方前側面圖ヲ示ス

發明ノ詳細ナル説明

本發明ニヨレハ受話口ハ簡單ニシテ調整シ得ヘク且ツ主トシテ彈條ニヨリテ耳內ニ一定位置ニ支持セラル、型成支持部ヨリ成ル該支持部ハ受話器ノ音聲振動ヲ聽道ニ傳送スル様小電話受話器ヲ取付ケル手段ヲ具フ

受話口ハ音聲通路ヲ有シ而シテ音聲通路ヲ聽道ニ緊密ニ接續スル如キ方法ニ於テ聽道口ニ適合スル如ク型成セラル

此ノ裝置ニヨレハ受話口ノ二三ノ標準ノ大サ竝ニ形狀ノモノヲ以テスレハ大多數ノ耳ニ能ク適合セシムルコトヲ得ルナリ又音聲通路竝ニ電話受話器支持部ハ型成部ノ形狀及彈條支持部ノ彈性竝ニ可調整ニヨリテ聽道ト平等ニ且ツ緊密ニ接續サレ快ク支持セラル、ナリ

型成部ハ硬質「ゴム」「ペークライト」又ハ他ノ適當ナル材料ヲ以テ作成セラル彈條支持部ハ眼鏡ノ耳蔓金物ヲ作成スルニ一般ニ使用セラル、自由彈條ノ如キ材料ヨリ作成セラルヘシ

第一圖乃至第四圖ニヨレハ受話口ノ型成支持部ハ(1)ニ於テ示サレ且ツ其ノ先端即端口ハ聽道口ニ適合スル如ク型成セラル然ルニ下側部後側部及頂部ハ圖示セル如ク外耳ノ內壁ニ接觸セス調整彈條又ハ可撓部(2)ハ支持部(1)ノ下側ニ取付ケラレ而シテ圖示セル如ク耳殼(3)ノ底部及後部竝ニ頂部ノ周圍ニ擴及スル如ク型成セラル音聲通路(4)ハ受話器端ヨリ支持部(1)ヲ通シテ先端又ハ端口(5)ニ擴及ス外側ニ於テ支持部(1)ハ音聲通路(3)內ニ音聲振動ヲ送出シ得ル様電話受話器(6)ヲ支持シ且ツ接續スルタメノ任意ノ適當ナル手段ヲ具フ

音聲通路(3)ノ端口(5)ハ迎珠(8)下ヲ通過シ且ツ對迎珠(1)對耳輪(1)及對耳輪(1)ノ脚ノ後部ノ耳殼(7)內ニ前方壓力ヲ與ヘ且ツ係合スル彈條(2)

ユヨリテ聴道口ニ固ク支持セラル支持部①ハ耳孔内ニ支持セラレ然ルニ可機彈條部⑤ハ耳殼孔竝ニ耳殼溝⑥内ニ支持セラル支持部①ハ聴道内ニ固ク壓迫セラレ而シテ全受話口ハ外耳内ニ支持セラレ而シテ迎珠②對迎珠③對耳輪④及對耳輪ノ脚⑦後部ニ於テ耳ト係合シ耳ヨリ外部ニ落下スルヲ防止ス可機部⑤ハ一度調整セラレタル後ハ受話口ヲ安全ニ定位位置ニ保持シ而シテ與ヘラレタル受話口ヲシテ大多數ノ異ナレル大サ又ハ形狀ノ耳ニ對シ適合シ且ツ調整シ得ヘカラン

第五圖乃至第八圖ハ本發明ノ變型ヲ示シ受話口①ノ型成部ハ外耳ノ下方部又ハ耳殼孔④ニ適合スル樣型成セラル

支持部①ノ頂部及背部ニ取付ケラレタル彈條⑤ハ耳殼溝⑥内及其ノ周圍ニ擴及スル如ク形成セラル音聲通路③ハ支持部①ヲ通シテ耳ニ合致シ且ツ殆ント緊密ナル音聲接觸ヲ型成スル樣聴道ニ緊密ニ係合スル如ク型成セラレタル前部突起即チ端口④ニ擴及ス音聲通路③ノ外端竝ニ支持部①ノ外側ニ於テハ受話口ニ電話受話器⑧ヲ接觸スルタメノ手段⑨カ具ヘラル

此ノ手段ハ螺旋接觸、閉結接觸又ハ他ノ任意ノ接觸型ヲ使用シ得ヘシ受話器⑧ハ音聲通路ノ端口④ハ耳殼孔④ノ後部ニ係合スル支持部ノ後部即チ踵部⑩竝ニ力ヲ下方及幾分ハ前方ニ作用スル彈條⑤ニヨリテ聴道内ニ緊密ニ保持セラル支持部①ノ内部ハ迎珠②對迎珠③及對耳輪④ノ後部ニ係合スル樣耳殼孔内ニ擴大セラル然ルニ彈條⑤ハ耳殼孔④ヨリ耳殼溝⑥ニ擴及シテ對耳輪④耳輪ノ凸部⑪及對耳輪ノ脚⑦後部ト係合シ斯クシテ受話口ヲ耳内ニ緊密ニ保持ス

受話口ハ音聲通路③カ聴道ト緊密ニ接觸サレ且ツ又耳内ニ緊ク保持セラル、樣設計セラル彈條⑤ハ長サ竝ニ形狀ニツキ共ニ調整スルコトヲ得從ツテ異ナル耳ニ對シ最モ良ク適合スヘク彎曲スルコトヲ得ヘシ與ヘラレタル大サノ型成支持部①ハ彈條⑤ヲ適當ニ調整スルコトニヨリテ多數ノ異ナレル耳ニ適合スヘク作成スルコトヲ得ヘシ

故ニ本裝置ニ於テハ受話口ハ耳殼孔内竝ニ迎珠對迎珠及對耳輪ノ後部ニ係合スル型成部片竝ニ對耳輪ノ後部及耳輪ノ凸部ノ後部ノ溝口ノ周圍竝ニ對耳輪ノ大部分ニ適合スル型成支持部ノ頂部及後部ニ取付ケラレタル彈條⑤ニヨリテ定位位置ニ支持セラル茲ニ記述シタル本發明ハ其ノ精神竝ニ特許請求範圍ヨリ離脱スルコトナク種々ナル變型竝ニ應用ニ適用シ得ヘキコト勿論ニシテ本發明ハ茲ニ圖示シ記述シタル特殊ノ構造ニ限定セラル、モノニアラス特許請求範圍ニヨリテノミ限定セラル、モノナリ

特許請求ノ範圍

音聲通路部ハ之レニ取付ケラレタル彈條部ヲ有シ之レニヨリテ該音聲通路部ハ聽道ト殆ント緊密ナル音聲接續ニ於テ維持セラレ該兩部ハ外耳内ニ位置セラル、コトヲ特徵トシ電話受話器ニ接續セラレ且ツ聽道ニ接續スルニ適スル型成音聲通路部ヲ有セル調整自在受話口

附 記

一 該彈條部ハ耳殼内ニ係合シ且該支持部ヲ聽道ト殆ント緊密ナル接續關係ニ維持シ且ツ受話口ヲ耳ト固定關係ニ於テ維持スヘク十分ナル張力ヲ有セシムルコトヲ特徵トセル特許請求範圍ニヨル受話口

二 該彈條部ハ其下部後部及上部ニ於テ耳殼ニ係合シ而シテ支持部ノ端口ト聽道トノ間ノ緊密ナル係合ヲ維持スル樣受話口上ニ前方壓ヲ作用セシムヘクナシタルコトヲ特徵トセル特許請求範圍及附記第一項ニヨル受話口

三 該彈條部ハ可撓性且ツ可調整ニシテ且ツ該音聲通路部ノ下側ヨリ突出シ而シテ對迎珠對耳輪及對耳輪ノ凸部ト係合シテ該音聲通路部ニ於テ聽道口ニ向フ力ヲ生スル如ク配置セラレ之レニヨリテ彈性的ニ受話口ヲ定位ニ維持セシムルコトヲ特徵トセル特許請求範圍及附記第一項ニヨル受話口

四 該音聲通路部ハ殆ント外耳ノ下方部ヲ充滿シ且ツ該部片ト聽道トヲ緊密ニ接續スル如キ方法ニ於テ聽道口ニ適合スル樣形成セラルルコトヲ特徵トセル特許請求範圍ニヨル受話口

五 該音聲通路部ハ之レニ取付ラレタル彎曲セル調整シ得ヘキ彈條部ニヨリテ聽道ト係合シテ保持セラレ且ツ外耳ノ上方部内ニ係合スヘクナシタルコトヲ特徵トセル附記第四項ニヨル受話口

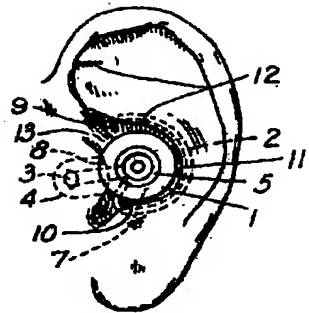
六 該彈條部ハ外耳ノ内壁ニ係合セシメラレ又耳内ニ緊密ニ支持部ヲ定位ニ保持シ且ツ音聲通路ハ聽道ト緊密ニ係合スル樣其ノ長サノ大部分ニ互リ内側壁ニ合致セシメラル、コトヲ特徵トセル附記第四項及第五項ニヨル受話口

七 該音聲通路部ハ迎珠對迎珠及對耳輪ノ後部ニ於テ耳ノ耳殼孔ニ合致スル樣形成セラル、コトヲ特徵トセル附記第四項及第五項ニヨル受話口

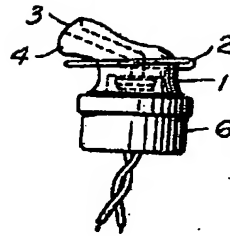
八 該彈條部ハ音聲通路部ノ頂部及後側ヨリ突出シ而シテ耳溝内ノ周圍ニ於テ對耳輪ノ後部及對耳輪ノ脚部ニ係合スル樣彎曲セラレ之

レニヨリテ音聲通路部ニ於テ聽道口ニ向ヒカラ作用セシメラル、コトヲ特徴トスル附記第二項及第五項ニヨル受話口

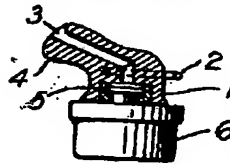
圖一第



圖二第



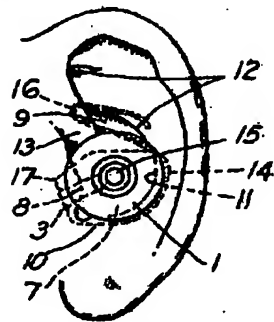
圖四第



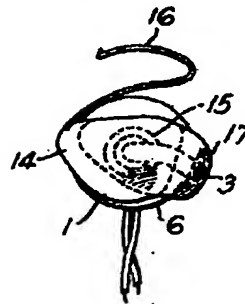
圖三第



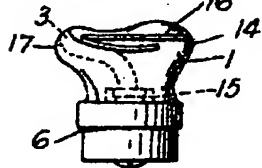
圖五第



圖六第



圖七第



圖八第

